

財団法人いばらき文化振興財団

[法人の概要]

平成20年7月1日現在

代表者名	理事長 平山恒夫(非常勤)	県所管部課	生活環境部 生活文化課
所在地	水戸市千波町後川745	電話番号	029-305-0161
ホームページURL	http://www.icf4717.or.jp	E-mailアドレス	icf-ga2@icf4717.or.jp
資本金(基本財産)	30,000	千円	設立年月日 平成4年4月17日
主な出資者	出資順位	出資者名	出資額(千円) 出資比率
	1	茨城県	30,000 100.0%
	2		
	3		
	4		
	5		
その他			
設立目的	各種の文化振興事業を行うことにより個性豊かな県民文化の振興を図り、もって国際性豊かな文化の県づくりに寄与することを目的として平成4年に設立された。 平成11年からは、茨城県文化福祉事業団の文化部門を統合し、文化芸術に接する機会の提供、県民文化センターの管理運営及びアクアワールド茨城県大洗水族館(以下「大洗水族館」)の運営を行っている。		

[事業の概要]

(単位:千円)

事業名	平成17年度	平成18年度	平成19年度	内容	
事業1	大洗水族館事業	1,724,912	1,729,637	1,666,905	「茨城の海と自然・世界の海と地球環境」を基本テーマに、観光レクリエーション施設、地域の文化と経済に貢献する施設、海を通じた環境教育現場としての生涯学習施設、自然保護と種の保存に関する実践・研究施設として、「展示」、「普及」、「研究」の3つの機能を相互に連動させた魅力ある海の総合ミュージアム施設として運営する。
	全体事業に占める割合	68.6%	69.2%	69.9%	
事業2	県民文化センター事業	471,373	461,464	444,941	県の文化芸術振興の拠点施設である県民文化センターの運営、施設の維持管理及び使用料徴収事務を行うとともに、食事等の提供、駐車場の管理を行い、利用者への利便とサービスを図る。
	全体事業に占める割合	18.7%	18.5%	18.7%	
事業3	文化振興事業	318,672	308,420	271,309	個性豊かな県民文化の振興を図るため、文化芸術活動への助成及び文化芸術に接する機会の提供を行うため幅広いジャンルの公演事業を実施する。
	全体事業に占める割合	12.7%	12.3%	11.4%	
その他事業	事業1～3以外	0	0	0	
	全体事業に占める割合	0.0%	0.0%	0.0%	
全体事業		2,514,957	2,499,521	2,383,155	指定管理者
	全体割合	100.0%	100.0%	100.0%	

< 財団法人いばらき文化振興財団 から県民のみなさまへ >

いばらき文化振興財団は、各種の文化振興事業を行うことにより、個性豊かな県民文化の振興を図り、国際性豊かな文化の県づくりに寄与することを目的に設立されました。

文化芸術に接する機会の提供として良質な舞台芸術公演を行うほか、文化活動団体等への支援及び県民の文化活動の拠点施設としての「県民文化センター」の管理運営、茨城の海と自然・世界の海と地球環境を基本テーマとした「アクアワールド・大洗」の運営を行い、県民の皆様から親しまれる魅力ある施設をめざして運営にあっております。

県民文化センターにつきましては、平成18年度から指定管理者の指定を受け、事業面では、歌舞伎・クラシック音楽・オペラ公演など様々な舞台芸術を提供するとともに、古典芸能体験講座・音楽出前講座など参加型事業を行い、文化の担い手の育成に努めております。施設運営面では、貸館の予約受付及びチケット販売窓口を午後7時まで営業するなどサービス向上に努めております。

アクアワールド・大洗につきましては、バージョンアップした「ペンギンのお散歩(11/1～5/31)」や企画展「解体新魚(1/31～5/10)」のほか、巨大マッコウクジラの骨格標本展示(12/13～)を行うなど、お客様に「見て、触れて、遊びながら楽しく学べる」展示の充実に努めております。

今後とも、県民文化センターとアクアワールド・大洗がお客様に快くご利用いただけますよう、施設の安全管理と事業展開に努めてまいりますので、職員一同、皆様のお越しを心からお待ちしております。

平成21年2月 理事長 平山 恒夫

[経営状況] 財団法人いばらき文化振興財団 (単位:千円)

区分		平成17年度	平成18年度	平成19年度	増減数	増減理由
収支・正味財産の状況	事業活動収入	2,532,790	2,727,720	2,660,224	67,496	
	基本財産運用収入	24,893	11,530	11,514	16	
	事業収入	1,991,701	2,220,975	2,144,390	76,585	水族館入場料収入 86,921
	受託・補助金等収入	487,407	474,389	475,211	822	
	その他の収入	28,789	20,826	29,109	8,283	特定預金運用収入の増
	事業活動支出	2,514,957	2,499,521	2,383,155	116,366	
	事業費	757,480	848,024	824,949	23,075	水族館売店事業費等の減
	管理費	1,757,477	1,651,497	1,558,206	93,291	退職給付の減等
	うち役員人件費	19,868	19,118	19,074	44	
	うち職員人件費	842,315	833,476	827,859	5,617	職員数の減及び臨職の増
	事業活動収支差額	17,833	228,199	277,069	48,870	
	投資活動・財務活動収入	80,278	118,868	74,018	44,850	基金取り崩し収入の減
	投資活動・財務活動支出	23,384	933,222	344,956	588,266	施設設備修繕積立金の減
	投資活動・財務活動に伴う収支差額	56,894	814,354	270,938	543,416	
	当期収支差額	74,727	586,155	6,131	592,286	
	一般正味財産増加額(正味財産増加額)	2,532,791	2,768,312	2,665,990	102,322	
	経常収益	2,532,791	2,728,312	2,661,265	67,047	水族館の経常収益の減
	経常外収益	0	40,000	4,725	35,275	指定正味財産の振替額の減
一般正味財産減少額(正味財産減少額)	2,435,966	2,490,320	2,457,193	33,127		
経常費用	2,435,725	2,452,238	2,456,560	4,322		
経常外費用	241	38,082	633	37,449	指定正味財産の振替額の減	
一般正味財産増減額(正味財産増減額)	96,825	275,970	204,072	71,898	主に水族館部門の減	
指定正味財産増減額	0	2,022	4,725	2,703		
正味財産期末残高	2,144,131	2,420,101	2,624,173	204,072		
貸借対照表	資産合計	2,884,911	3,306,474	3,409,385	102,911	
	流動資産	1,025,343	577,469	427,562	149,907	固定資産への振替による減
	固定資産	1,859,568	2,729,005	2,981,823	252,818	流動資産からの振替による増
	負債合計	740,780	886,373	785,212	101,161	
	流動負債	243,790	377,891	228,087	149,804	積立支出の未払計上額の減等
	うち短期借入金	0	0	0	0	
	固定負債	496,990	508,482	557,125	48,643	退職給付引当金の増
	うち長期借入金	0	0	0	0	
	正味財産合計	2,144,131	2,420,101	2,624,173	204,072	
	基本財産充当額	730,000	690,000	690,000	0	
県財政関与状況	補助金	103,138	97,352	95,951	1,401	
	委託料	384,263	377,037	371,960	5,077	県自然博展示水槽委託金の減
	貸付金	0	0	0	0	
	その他(分担金・負担金・出捐金等)	0	0	0	0	
	合計	487,401	474,389	467,911	6,478	
	財政的関与の割合(%)	19.24%	17.39%	17.59%	0.2	
	損失補償・債務保証契約に係る債務残高(期末)	0	0	0	0	
	借入金残高(期末)	0	0	0	0	
合計	0	0	0	0		

主要経営指標	算式	平成17年度	平成18年度	平成19年度	増減P	備考
収益事業比率	収益事業費 / 当期総支出	24.1%	24.6%	30.3%	5.7	
管理費比率	管理費 / 当期支出合計	69.2%	48.1%	57.1%	9.0	
人件費比率	人件費 / 事業活動支出	34.3%	34.1%	35.5%	1.4	
自己収入比率	自己収入 / 事業活動収入	92.2%	93.6%	93.7%	0.1	
流動比率	流動資産 / 流動負債	420.6%	152.8%	187.5%	34.6	
借入金比率	借入金残高 / 負債・正味財産合計	0.0%	0.0%	0.0%	0.0	

[組織]

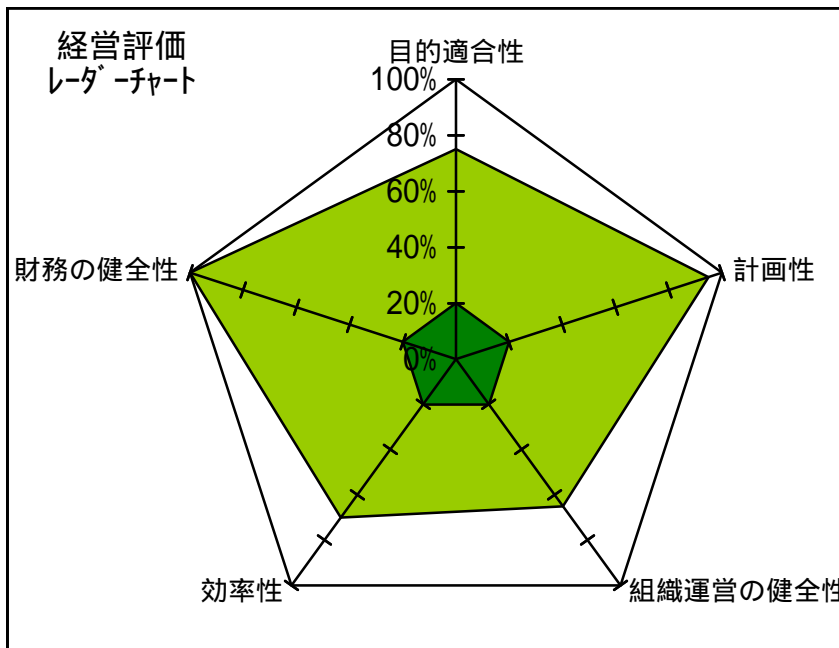
7月1日現在の人数		平成18年		平成19年		平成20年		増減数	増減理由
		県派遣	県OB	県派遣	県OB	県派遣	県OB		
役員	常勤理事・監事	2	0	2	2	2	0	2	0
	非常勤理事・監事	15	0	2	15	0	2	15	1
	計	17	0	4	17	0	4	17	1
職員	管理職	15	1	0	16	1	0	16	1
	一般職	63	2	0	64	2	0	61	2
	嘱託・臨時職員等	82	0	0	83	0	0	88	0
	計	160	3	0	163	3	0	165	3
当期常勤職員の年齢構成		~20代	30代	40代	50代	~	合計	平均年齢	プロパー職員平均勤続年数
		63	32	27	43		165	38.0 歳	20.1 年

[評点集計]

評価の視点	評価項目数	評点	満点	得点率
目的適合性	10	15	20	75.0%
計画性	8	19	20	95.0%
組織運営健全性	9	13	20	65.0%
効率性	10	14	20	70.0%
財務健全性	10	20	20	100.0%
合計	47	81	100	81.0%

警戒指標

--



《評価の視点》

目的適合性	法人が行っている事業と当初の設立目的が適合しているか
計画性	経営目的、経営方針が各種計画に反映され、計画・実行・見直しが行われているか
組織運営健全性	組織、人事、財務等の内部管理体制が適切に整備・運用され、かつ情報公開による透明性の確保が適切か
効率性	組織の管理運営上における人的・物的な経営資源が有効活用されているか
財務健全性	法人の財務体質が健全であるか、また、各事業の採算性がとれているか

[法人の自己評価 (経営概況 , 経営上の課題・対策等)]

目的適合性	計画性	組織運営健全性	効率性	財務健全性
個性豊かな県民文化の振興を図り国際性豊かな文化の県づくりに寄与するため文化振興事業、県民文化センター、大洗水族館の運営等を行っている。施設及び事業の入場者による事業効果・目標達成度の状況から、設立当初と同等の社会的要請があると考えられるので、今後も設立目的に沿った事業運営に努める。	第2期中期経営計画(19～23年度)を策定し、事業別に目標を掲げ運営にあたっており、概ね計画どおり推移している。(H19年度の目標達成度99.3%) 第2期中期経営計画の見直しについては、社会情勢の変化や実体にあわせるなど、必要に応じて修正を加える。	事業内容及び予算・決算の状況など、各事業の広報とともにホームページ上で情報公開を行い透明性の確保に努めている。 なお、業務遂行における目標達成への責任の明確化やコンプライアンス経営の充実については、今後取り組んで行く。	常勤職員数では前年度に対して3名増となっているが、嘱託職員・臨時職員の活用によって、人件費は昨年度とほぼ同額におさえられている。管理費については、公益法人の適正基準を超えているが、2期連続で抑制している。 職員等の適正配置を行い効率的な運営に努める。	3期連続黒字であり、健全性で当面の課題はないが、財団の経営は、全体予算の7割を占める水族館の運営状況に大きく左右されることから、今後も継続して安定した入場者を維持するため広報宣伝の拡充を図り、事業収入の確保に努めるとともに効率的な運営に努める。
今後の事業展開の方向	財団の平成20年度予算規模は、文化振興事業372,953千円、文化センター事業439,164千円、水族館事業1,982,092千円、合計2,794,209千円となっている。水族館事業の予算規模は財団全体の70%を占めるため、水族館の運営が財団全体の経営を左右することから水族館の入場者をいかに確保していくかが課題となる。 このため、マスメディアや観光情報誌等を活用した広報宣伝を行うとともに、引き続き首都圏の人口密集地の潜在客の発掘や年間パスポートの販売等により、リピーターを確保するための対策を積極的に推進するなど、長期的、安定的な経営を目指すものとする。 また、文化芸術に接する機会の提供として実施する公演事業や利用者の利便を図るため実施する県民文化センター自主事業については、収支均衡を保つよう運営を行うほか、指定管理者として指定を受けた県民文化センターの管理運営については、利用者の要望を踏まえ一層のサービス向上に努める。			

[法人担当課の意見]

目的適合性	計画性	組織運営健全性	効率性	財務健全性
財団が行っている事業は、本県の文化振興等に寄与しており、設立目的と適合しているものとする。また、県民が文化に触れる機会を増やすために、低価格で提供しており、公益法人としての役割を果たしていると考えられる。	財務目標・業績目標の設定がある中期経営計画を策定・公表し、これに基づいた経営が実行されているものとする。また、定期的に見直しも行っていることから、進捗状況の検証も適正に行われているものとするが、顧客満足度の把握方法等についてさらに検証したい。	業務規定の整備や事業内容等の公表、公認会計士などの関与については、適正に行われているものとする。今後、危機管理体制の整備やコンプライアンス経営への取組に、財団とともに取り組んでいきたい。	職員等の適正配置及び管理費の抑制により、昨年度の評価に比べ大幅に改善したが、今後もさらに効率性を高めるようにしていきたい。	3期連続の黒字であり、健全性には問題ないと考えるが、水族館の運営によるところが大きいので、効果的な広報等による水族館の入館者のさらなる増を図るとともに、文化振興事業等についても、入館者増となるように努めていきたい。
<p>法人担当課の意見</p> <p>水族館については、施設の安全性を高める施設設備の改修工事等を行う一方、「ペンギンのお散歩」などの人気のあるイベントや、自然体験塾などの教育普及活動を実施したことにより、全国7位の入館者数を確保することができ、積極的な事業運営は評価できる。</p> <p>また、県民文化センター管理運営についても、受付・チケット販売窓口の時間延長や、インターネットによるチケット販売を実施したことにより、入館者数の増加するなど、健全な運営を行うとともに、本県の文化芸術活動の拠点として、重要な役割を果たしているものとする。</p> <p>昨年度の評価と比較し、効率性が大幅に改善したことにより全体の評価も上がった。今後、中期経営計画を適切に進捗管理するとともに、顧客満足度の把握方法の検証やコンプライアンス経営への取組を進め、本県の文化芸術活動の要となるように指導していく。</p>				

[経営目標]

区分	指標名	単位	H17実績	H18実績	H19 目標	H19実績	達成度(%)	H20目標値	
経営目標	事業成果	1 1公演当たりの入場率	%	76.4	75.6	80.0	84.6	100.0%	80.0
		2 水族館の入場者	千人	1,087	1,218	1,000	1,178	100.0%	1,100
	健全性	1 流動比率	%	331	421	180	187	100.0%	187
		2 自己資本比率	%	72	74	75	77	100.0%	77
	効率性	1 職員1人当たりの事業収入	千円	12,443	13,916	12,000	13,091	100.0%	12,186
		2 職員1人当たりの当期正味財産増減額	千円	615	1,729	250	1,247	100.0%	284
平均目標達成度							100.0%		

[総合評価]

取組みを強化すべき視点	目的適合性	計画性	組織運営健全性	効率性	財務健全性
	概ね良好	改善の余地あり	改善措置が必要	緊急の改善措置が必要	
総合的所見等	<p>大洗水族館の入場者数が減少していることから、企画の見直しなど対応策を検討されたい。</p> <p>平成18年度に、県との間で費用負担等を取り決めた水族館の施設設備の修繕・更新については、適時的確な維持管理を実施するとともに、施設設備修繕等積立金については、その設定方法等について県と協議し、見直しを検討されたい。</p>				
総合的所見等に係る対応	<p>大洗水族館の入場者数については、平成18年度が過去2番目に多い実績であったため、前年対比では減少しているものの、過去3番目の実績を上げている。今後は更に魅力ある企画展の開催や効果的なPRに努めるよう指導していく。</p> <p>水族館の施設設備の修繕・更新については緊急性・危険性の高いものから優先して行うことを基本に計画的に実施するとともに、施設設備修繕等積立金の取り扱いについては、会計士等の指導を仰ぎながら、会計処理と水族館の施設管理の両面から見直しを行い、望ましい設定方法について検討を行う。</p>				